

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

# 肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会  
〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号  
TEL・FAX (096) 373-5425  
ホームページ <http://www.119higo.com/>  
発行人 理事長 松下 修三 編集人 高村 恭三  
発行所 ㈱かもめ印刷 TEL (096) 279-3440



楷樹 (山崎記念館前)

## 理事長就任の挨拶

理事長 松下 修三



肥後医育振興会に長年貢献された西先生・山本先生がご退任されることになり、令和五年六月期の理事会でのご推薦、並びに評議員会での議を経て、理事長を引き継ぎました。もとより浅学菲才の若輩者ではございますが、伝統ある振興会の活動を継承しながら、今日的課題の解決のために努力したいと思っております。引き続きご支援よろしくお願います。肥後医育振興会は、熊大医学部の創立一〇〇周年記念事業の一環として開始され、徳臣、岡崎、神原先生のリーダーシップのもとに発展してまいりました。平成二十六年に理事長・副理事長を引

き継がれました西先生・山本先生のご指導の下に、私も庶務担当の常任理事を務めました。振興会はこれまで、高度化、複雑化する医療について、正しい情報の提供のための講演会の開催や情報誌への寄稿、さらに医療者の育成についての諸課題を共有し、ネットワークを作るための医療人育成会議、さらに若手の医療者の表彰など、様々な活動を行ってまいりました。特に、平成二十二年からは、公益財団法人となり、ますます社会的貢献が活動の柱となりました。さて、現代社会はコロナ禍によって、多くの打撃を受けました。しかしながら、同時に多くの教訓をもたらしたとも言えます。例えば、体の調子が悪い時に、いつでもだれでも医療を受けられることは当たり前のように思っておりますが、救急病院でのクラス

ターの発生などによって、普通なら助かる命も手遅れになるような事態が起こりました。改めて「安心・安全な社会」が、我々の生活の基礎であることを実感しました。コロナ禍はまだ続くと考えられますが、コロナワクチン開発を含む予防、新たな治療法などがこれまでとは比べられないくらいスピードで開発され手元に届けられました。ここでも、情報の提供や医療人育成などの面で、振興会活動が多少ともお役に立てたのではないかと思います。一方、時代は大きな変革期にあります。最も重大な地球規模の課題は、温暖化ではないかと思えます。これには、政府を挙げて脱炭素社会の実現のために努力がなされています。本来、地球環境は、世界規模での対策が必要とされています。この地球環境の問題は、人類が自然界の炭素の流れを変えたところに問題が生じ、環境変化は気候変動のみならず、関連する農産物の生産の減少につながり、食糧

危機にも関連すると考えられます。また、「脱炭素社会」は、産業革命以来積み上げてきた人々の経済生活に直接かわる問題です。医療のシステムにおいても脱炭素化がテーマになっていきます。安心安全な社会を支えている医療体制も、これらの問題と無関係ではおられません。まさに、コロナ禍は環境問題とグローバル経済社会が関連して起こったといえるでしょう。「21世紀はウイルス病の時代だ」といわれています。コロナが終息したとしても次の脅威がやってくることは容易に予想できません。少し世の中が落ち着いてきた今こそ、コロナ禍で明らかとなった脆弱な医療体制を見直す時だと思えます。コロナ前は国民医療費の高騰が一番の課題で、医療経済的観点に基づいた施策が行われてきました。医療の効率化に反対する人はいないと思いますが、パンデミックになると途端にマヒを起こす医療体制につながったと思います。